



社会福祉法人 三愛学園

児童養護施設 さんあい

平成28年度事業報告

神を愛し 人を愛し 土を愛す

施設長総括

28年度の最終四半期は病気療養のために休職せざるを得ない状況になり、職員や関係者の方々に多大なご迷惑をおかけ致しました。そんな状況にも関わらず職員の日々の努力のおかげで、この1年大きな事故もなく子どもたちが安心安全の中で成長できたことは感謝にたえません。

さんあい創立40周年にあたる28年度は、記念行事の他に沢山の節目となる出来事がありました。一つ目が、緊急一時保護ユニットの開設準備です。これは児童虐待の増加に対応する国の施策として県に通達され、県から依頼説明が各児童養護施設にあったという経緯です。さんあいとしては、子どもの貧困や虐待の増加の中でかねてより入所児童以外の社会的養護の必要な子どもたちに対する貢献を考えていたこともあり、職員と話し合い、理事の皆様のご理解を得て開設の方向に至りました。

二つ目は、県に対し小規模グループケアの申請をしたことにより、3名の職員増員が可能となりました。これに伴って、子どもの養育体制と職員の働きかたの見直しを行い、次年度より新しい養護体制で臨む礎ができたことです。

三つ目は、40周年記念事業の一環として子どもたちの生活環境の改善が進みました。具体的には、各居室にエアコンを設置し、運動場に高いヘンスを設置することができ、子どもたちも大いに喜んでいました。

四つ目は、さんあいの理念である「あなたの隣人を愛しなさい」の実践として、国内では熊本地震の被災地への支援、海外ではシリア難民への支援とタイの子どもたちへの支援のアクションを職員と子どもたちがとってくれたことです。特にタイの子どもたちの支援では、実際に現地を訪問して支援金や物品を寄付し、現地の子どものたちと交流することもできました。この国内外の子どもたちの支援は今後も継続的に続けてゆき、さんあいの子どもたちと職員にもよい影響を及ぼすような活動にしてゆきたいと思います。

最後に、28年度は6名の子どもたちがさんあいを巣立って行きました。特に高校を卒業して退所した3名は、2歳から16年間さんあいでも暮らしした子たちです。其々進路は異なりますが、さんあいでも暮らしした時よりも厳しい生活が待っているかもしれません。施設長として神様に祈る事しかできないこともあるかもしれませんが、これからも彼らの歩みを見守って行きたいと思います。28年度もさんあいを支えて下さった職員と理事、そして関係者の方々に心より感謝をいたします。ありがとうございました。

平成28年度事業報告

1. 入退所児童データ

1) 入退所児童数 (28. 4. 1~29. 3. 31)

月	在籍数	入所	退所	一時保護	入所児童	退所児童
4	35					
5	35					
6	35					
7	35					
8	35					
9	35					
10	35					
11	35					
12	35					
1	35					
2	35					
3	35	5	6		虐待4 措置変更(乳児院) 1	高校卒業3名 (大学進学・就職 予備校) 小学生2名 (茜の里措置変更) 家庭引取1名
合計	420	5	6		5	6

2) 退所先別 (28. 4. 1~29. 3. 31)

退所先	人数	男児	女児
家庭	1	1	

平成28年度事業報告

里親委託			
就職	1		1
進学	1 (1)	(1)	1
措置変更	2	2 (茜の里)	
合計	6	4	2

3) 児童相談所別児童数 (29.5.1)

児童相談所	中央	南	熊谷	川越	越谷	所沢	さいたま市	合計
男児	0	3	4	7	0	5	0	19
女児	0	2	5	0	2	2	5	16
合計	0	5	9	7	2	7	5	35

4) 年齢別在籍児童数 (29.5.1)

	幼児					小学生						中学生			高校生			計
	1才	2才	3才	4才	5才	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	
男		1	1	1	2	2	1	1		1	1	2		1	2	1	1	20
女		1	1		1		1	2	1		1	2	2	1	2		1	15
計	8					11						8			8			35

平成28年度事業報告

5) 措置理由別児童数

措置理由		平成28年度 (H28. 4. 1)	平成29年度 (H28. 5. 1)
家出	父		
	母		
	父母		
死亡	父		
	母		
	父母		
疾病	父		
	母		
	父母		
離婚	8	5	
棄児			
虐待	身体的虐待	7	7
	心理的虐待	3	6
	性的虐待	1 34.2%	1
	ネグレクト	1	1
親の精神障害	3	3	
服役	2	2	
未婚の母の子	4	5	
経済的困難	3	3	
その他	3 (里親委託解除)	1	
合計	35	35	

平成28年度事業報告

2. 年間行事

行事の種別	期日	実施内容
園内行事 (全体)	4月 5月 6月 7月 10月 12月 1月 3月	入園入学を祝う会 創立記念祭(さんあい祭り) さんあいレストラン ガーデンパーティー 栄養指導「食事マナーと箸の使い方」 クリスマス会、さんあい大掃除・さんあいレストラン もちつき・2分の1成人式・第一回さんあい同窓会 卒園卒業を祝う会
グループワーク活動	5月 7月 8月 10月 11月 2月 3月	わくのびキャンプ(小学生4名) 冒険キャンプ秩父(小中高生12名) 児童福祉施設親善球技大会(ソフトボール大会) ※小中高生11名 Bブロック準優勝・チームワーク賞 カードゲーム大会(中高生5名) バドミントン&BBQ大会(小中高生・大人29名) グリコ工場見学・防災センター体験(小学生7名) えいごであそぼう(幼児・小学生8名) お菓子作り(幼児7名) スポーツ大会(小中高生・大人26名)
カフェさんあい	4月 7月	第8回「アフリカを体験しよう！」 伊藤真理様・國吉美紗様(ワールドビジョン) 第9回「アメリカ合衆国をしろう！」 ジョーンズ様ご一家(高崎市在住宣教師)
招待・地域行事 自立支援セミナー等	7月	深谷祭り子ども神輿参加 西島教会キッズフェスティバル参加

平成28年度事業報告

(施設又は部屋で対象児童を調整)	8月 9月 10月 11月 12月 2月 8~1	西武ライオンズ観戦招待 おかあさんといっしょコンサート招待 群馬教会こどもの集い参加 高校生自立支援セミナー(高校3年生2名) 大宮アルディージャ観戦招待 浦和レッズ観戦招待 軽井沢おもちゃ王国招待 西島教会子ども祝福式参加 熊谷福音キリスト教会子どもクリスマス招待 資生堂巣立ちフェスティバル(高校3年生2名) 高校3年生3名、B4S様の自立支援セミナー全6回に参加。
子ども会行事 (小学生対象)	7月 8月 9月 11月 12月 2月 3月	七夕祭り飾り作り 櫛挽夏祭り・ラジオ体操 岡部地区体育祭 子供会お楽しみレク クリスマス会 食事会(親睦会) 歓送迎会
各部屋行事 (特別外出・宿泊行事)	8~2月	新潟県柏崎市海水浴×3部屋、群馬県神流町キャンプ、スパリゾートハワイアンズ・アクアマリンふくしま、東京ディズニーランド、富士急ハイランド、幕張メッセコンサート(高校生)
(部屋外出行事)	通年	智光山公園こども動物園、東京ドームシティ、映画館、ラウンドワン、ぐんまこどもの国、日帰り温泉、東京ディズニーランド・シー、カリビアンビーチ、アクアパラダイスパティオ、藤子不二雄ミュージアム、華蔵寺公園遊園地、NHKスタジオパーク、東京スカイツリー、秩父滝沢サイクルパーク

平成28年度事業報告

		その他、買物や食事、地域まつりなどへの外出あり
--	--	-------------------------

3. 職員研修実績

主催団体・機関	研修会内容
県教育局・深谷市	児童虐待防止支援研修、虐待防止講演会、虐待防止ネットワーク会議
県社協	人事・労務管理者研修、チームリーダーキャリアパス研修、財務管理担当者研修、リスクマネジメント研修、感染症専門研修、発達障がいに関する研修、発達障がいステップアップ研修、アンガーマネジメント研修、ストレスケア研修、採用力アップ研修
全養協	全国施設長会議、家庭支援専門相談員研修
埼玉研・埼玉協	施設長県外視察研修、主任級研修、心理職研修、新任職員研修全3回、施設間職員派遣研修（2施設）、前年度新任フォローアップ研修、権利擁護に関する研修、基幹的職員育成研修、基幹的職員フォローアップ研修
関東ブロック	関東ブロック施設長研修、関東ブロック職員研修
その他	子どもの虹家族支援研修、熊谷児童相談所講演会、資生堂スターズセミナー、キリスト教連盟子育てワークショップ、メンタルヘルス講習会、社会福祉法人実務研修、小舎制研究会埼玉大会、埼玉性研講演会、愛の泉講演会、あいの実シャロームセミナー、雀幸園園内研修
園内研修 主催セミナー 講演会	<p>*施設内職員研修</p> <p>さんあいSV（スーパーバイザー）である「まめの木クリニック」の藤井和子先生によるペアレント・トレーニング及びケースカンファレンスの実施。他施設の職員、里親、地域家庭も定期的に参加し、6月、8月、9月、11月、2月の全5回実施。</p>

*さんあい合同セミナー

「子どもの貧困と居場所づくり」～一人ひとりに向き合って～
白鳥 勲 先生（彩の国子ども・若者支援ネットワーク アス
ポート学習支援事業 総括責任者）

参加者：他施設職員、里親、地域家庭、教員等、41名

4. 重点目標への取り組み

1) 「小生活単位養護」を認識し、養護内容・養護形態・職員体制の内容充実に取り組む

【実施状況】

・部屋作り

部屋単位での行事や外出などを実施する中で、部屋としてのまとまりや担当保育士や指導員との良好な関係が作られている。

家庭を知らない子ども達・不適切な養育環境に置かれてきた子ども達にとって、将来家庭を持った時のモデルとなれるような養育環境を目指し各お部屋での食事作りを実践している。

・会議の充実

毎週水曜日を「会議の日」とし、職員会議、リーダー会議、処遇会議、ブロック会議、運営会議、各委員会会議を行なっている。

・「養護要綱」の見直しを行い新しく作り直し全職員へ配布、会議を利用して読みあわせをしながら、再度理解を深めている。

2) さんあいで生活する児童が「安心」と「信頼」の人間関係の中で生活をし、心の健康を回復し、よりよく自立できるように支援する

平成28年度事業報告

【実施状況】

- ・ 部屋の話し合いを実施し、子どもの意見を聞きながら外出等の行事計画を立て、職員と子ども、子ども同士で何でも言える人間関係作りに努力している。
- ・ 生命と身体、心の安全が守られるような職員の眼として、常時、それぞれの部屋に必ず1名の職員がいるように、勤務調整を行なっている。

・ 年齢に合わせた生（性）教育の実施

<高校生グループ>

- ・ インターネット、SNSの危険性について
- ・ 自立について考える（食生活）

<中学生グループ>

- ・ プライベートゾーンとパーソナルスペースについて（復習）
- ・ 身だしなみについて
- ・ 性情報リテラシーについて

<小4～小5グループ>

- ・ プライベートゾーンとパーソナルスペースについて
- ・ 思春期の身体、心の変化について

<幼児～小3グループ>

- ・ プライベートゾーンについて

<個別>

- ・ 高校生男子＝マスターベーションについて

<その他>

- ・ 定期的に生（性）教育タスクチームにて居室内の関係性チェックを行い、不適切な関係性が無いか把握に努めた。

3) 児童養護施設における自立支援機能の更なる充実を図る

【実施状況】

- ・ 「児童養護施設管理システム」を毎日の処遇計画に活かせるようにしている
毎日の日誌をはじめ、毎月の育成記録、心理面接、児相・家庭との連絡の記録として活用するとともに、管理システムを利用した業務の短縮化を図っている。
- ・ 「自立支援計画書」に基づき処遇・養護計画を確実に実践していく

平成28年度事業報告

ファミリーソーシャルワーカー、主任を中心に児童相談所、保護者との連携を密に行い、自立支援計画の再評価も適時行なった。

4) 専門職及び関係機関との連携を一層強化し、児童の最善の利益を追求する

【実施状況】

・ 児童相談所との連携

年2回、児童相談所ソーシャルワーカーとの協議の場を設け、短期、中期、長期のケアプラン（自立支援計画）の見直しと児童の面接の実施を行なっている

・ ファミリールーム（親子訓練室）の利用

家族でゆっくりと過ごせるスペースとして保護者の方から好評である。

生い立ちの整理（ライフストーリーワーク）など、落ち着いて子どもと1対1で過ごせる空間としても有効活用している。

高校3年生の自活訓練としても活用している。

・ 治療的ケアの必要な児童に対する専門職の活用

常勤の心理士による心理面接を実施。平成28年度は、幼児1名、小学生8名、中学生4名、高校生1名が週1回、50分の面接を実施した。

また、児童相談所心理士による心理判定や心理面接も実施した。

深谷市教育委員会による、中学校通級指導教室（セルフサポート）を1名の児童が利用した。

・ 学校との連携を深める

小中学校との定期的な話し合い（連絡協議会）の場を持つと共に、必要に応じて担任教師との話し合いの場を設け、担当や心理士による授業見学等を行い、理解を深めている。

5) 入所児童のよりよい援助者として職員の資質向上を図る

【実施状況】

・ 園内研修の充実

* 施設内職員研修

さんあいスーパーバイザーである「まめの木クリニック」の藤井和子先生によるペアレント・トレーニング及びケースカンファレンスの実施。他施設の職員、里親、地域家庭も定期的に参加し、6月、8月、9月、11月、2月の全5回実施。

* さんあい合同セミナー

平成28年度事業報告

「子どもの貧困と居場所づくり」～一人ひとりに向き合って～

白鳥 勲 先生

(彩の国子ども・若者支援ネットワーク アスポート学習支援事業 総括責任者)

参加者：他施設職員、里親、地域家庭、教員等、41名

- ・外部研修への参加

職員研修関係にもある外部研修への参加等により個々並びにチーム・組織としての資質向上に努めている。

6) 家庭的養護の必要性への理解を深める

【実施状況】

- ・小規模グループケアの実施（平成28年度は2部屋が対象となった）

7) 地域との交流及び養護支援の充実を図る

【実施状況】

- ・櫛挽子供会への参加、深谷まつり等地域イベントへの参加
- ・深谷市要保護児童対策協議会（月1回、ファミリーソーシャルワーカー）への出席
- ・「ショートステイ事業」への支援

平成28年度は深谷市、本庄市、寄居町と契約を結び本庄市より1名・計1回の受け入れを行った。

- ・ボランティアの参加

学習ボランティアとして、近隣の保育士養成学校の学生を中心に子ども達の勉強を見ていただいた。

創立記念祭（さんあい祭り）には、元職員・支援者・深谷青年会議所・各大学専門学校の学生など約70名のボランティアスタッフが活躍してくれた。

- ・将来の社会的養護を担う人材育成として、各養成学校から実習生受け入れを実施。

平成28年度は保育士実習17名、社会福祉士実習1名を受け入れ。

- ・里親委託推進のため、養育里親及び専門里親研修の受け入れを実施しているが、平成28年度は0家庭であった。
- ・ふれあい交流事業として未委託の里親家庭を対象に研修や施設行事への参加、学校行事への同行などを実施して、子育てにおける地域や学校との繋がりを学ぶ場を設けている。

平成28年度事業報告

- ・里親研修（基礎研修）として、7家庭14人の里親希望者の方々へ、子どもとの関わりや社会的養護の状況、施設見学等の受け入れ対応を行った。
- ・深谷市地域のお茶の間事業として「さんあい子育て相談室」（無料）を実施。平成28年度の利用者はゼロであった。
- ・毎週日曜日は島村教会の子ども礼拝に参加。年少～年長の幼児は、認定こども園・島村めぐみ保育園に通園している。
- ・毎月第4水曜日を「エコの日」と定め、その日は特に献立をたてず、お部屋にある食材で食事を作り、食べ物への感謝の気持ちを養うと共に、タイの子ども達への支援を考える機会としている。

5. 28年度の各タスクチームの活動報告

1. 広報タスクチーム

【 成 果 】

- ・第8回カフェさんあいを4月30日（土）、第9回を7月9日（土）、第10回を11月26日（土）と年間3回行い、地域の人々や、子供会などにも声をかけ、交流ホールを使い海外のお話を聞いたり、交流を行う事ができた。
- ・さんあい新聞の発行も6月、10月、1月と例年通り3回発行することができた。
- ・市内のお店に置かせて頂いている募金箱の回収を行う事が出来た。
- ・できるだけホームページの管理、ブログの更新をするようにした。
- ・支援者の方や、施設に暑中見舞いや年賀状を出した。

【 課 題 】

- ・園長先生の不在の間、ホームページの更新、ブログの更新作業の時間がなかなか取れずに動きのないHPになってしまう期間があり、反省点である。
- ・募金箱の回収作業も、時間が取れずに7月頃に行ったきりである。置かせて頂いているお店の方からすると、不安・不信になってしまうのではないかと危惧される。今後どうやって滞りなく、回収に行けるか、顔を見せる、繋がりを切らさないという点から考えても対策が必要かと思われる。



カフェさんあいの様子

2. 食育タスクチーム

食育タスクとして今年成果が得られたことの1つが、エコの日の導入です。海外支援のために実施してきたのですが、食材の無駄をなくす・食材に感謝する気持ちをもてる良い機会となっている。2つ目が、さんあいレストランと称し、食材の半端品を利用しbuffet形式のレストランを開催しマナーを教えたり、ユニット以外の友達と食事をする良い機会となった。これらの取組により、子どもたちと食について考える良い機会になり、食費の大幅な削減にもつながる成果があった。

3. 危機管理タスクチーム

平成28年度は大きく2つの事項を中心に取り組んだ。

一つ目は、近年継続して取り組んでいるひやりはっとの集計と報告である。28年度は253枚のひやりはっどが提出され、分析内容を4月と10月に報告した。

2つ目としては、相模原の障がい者入所施設で起きた殺傷事件をきっかけに施設での防犯の取り組みを改めて振り返った。防犯カメラや門扉の開閉等の環境整備と共に、深谷警察と連携し防犯講習も実施した。

危機管理はこれで十分というものはない。職員それぞれが「もしかしたら…」という気づきの意識をより高く持てるように取り組んでいきたいと思う。



深谷警察の協力を得て実施した防犯訓練の様子

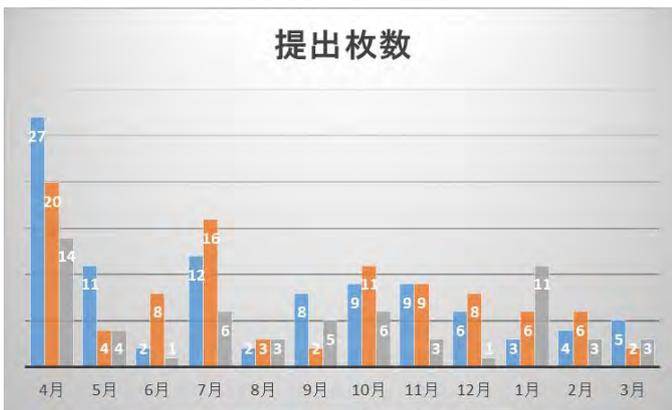
「ひやりはっど」から見る傾向と対策

28年度は253枚のひやりはっどの提出があり提出枚数は平成27年度と比較してほぼ同数で職員の危機意識も継続出来ていると感じる。さんあいでは3年間ひやりはっどの取り組みをしているが、例年同様のデータとなっている点が3点上げられる。1つ目は年度初めの提出枚数の多さである。これは居室移動や入所、職員の移動や入職で子どもと職員、また子ども通しの関係性が構築されていない時期でトラブルが多いという要因があげられる。2つ目は土曜日の提出枚数の多さである。これは子ども自身のトラブルの他にも引継ぎ不足等職員連携上の不備も多くあった。3つ目は、朝と夕方の提出枚数の多さである。朝に関しては引継ぎ不足や服薬忘れ、夕方は宿題の対応と家事をこなす慌ただしさが要因として考えられる。

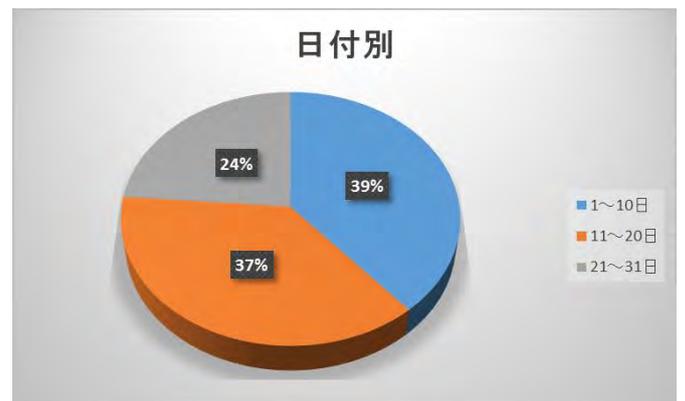
3年間で問題が起こる状況の理解が出来たので、29年度以降は問題の詳細にも目を向けながら取り組んでいく予定である。

平成28年度事業報告

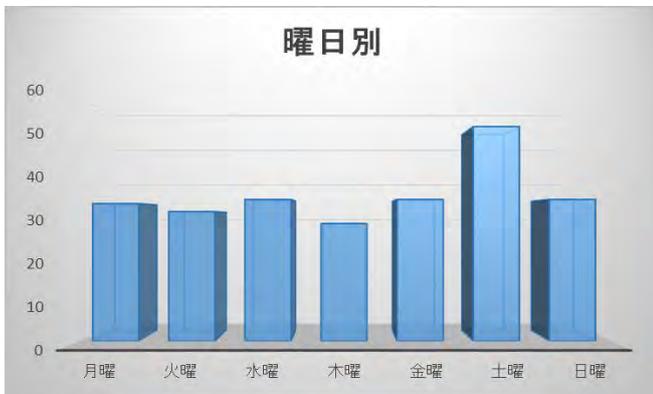
提出枚数



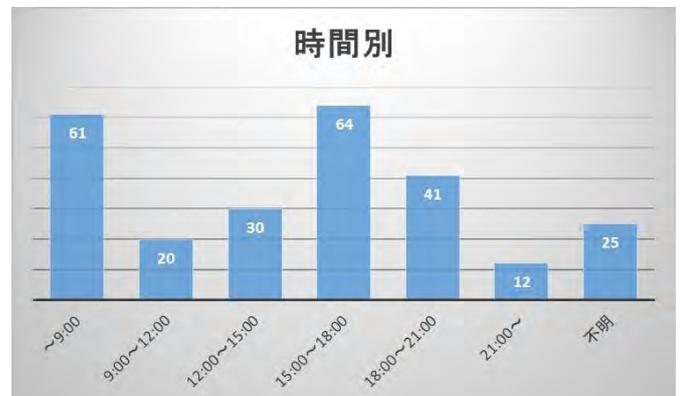
日付別



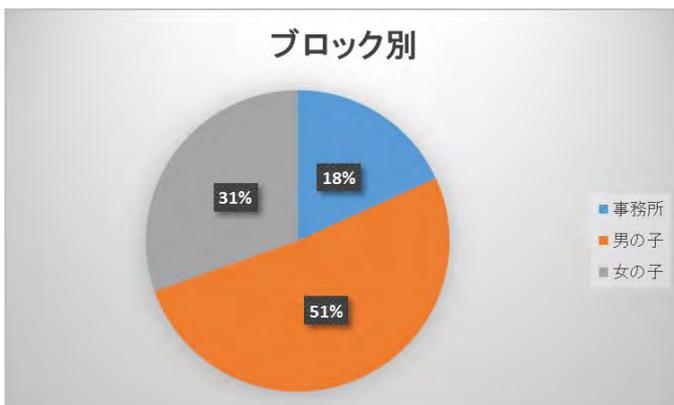
曜日別



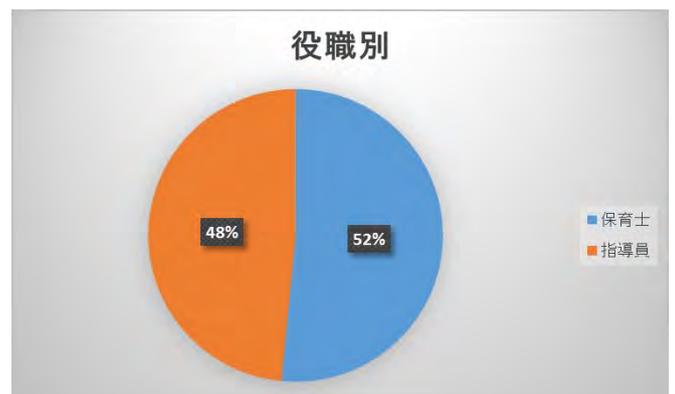
時間別

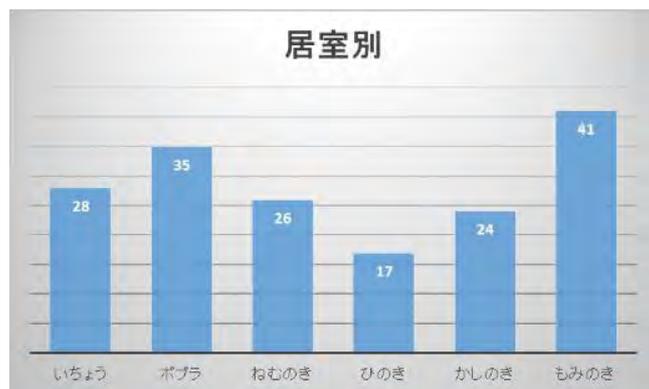
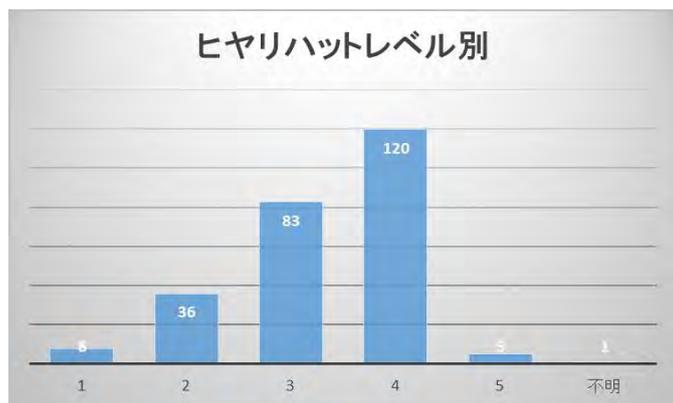


ブロック別



役職別





4. 職員育成・研修タスクチーム

【主な活動内容】さんあいSVである藤井和子先生の園内研修会の実施。(年間5回)

- ① 新任職員を対象とした「月一学習会」の実施。
- ② 地域、学校、里親、他施設職員と共に学ぶ「合同セミナー」の実施。

【成果】

- ・さんあい養育の中心となる「ペアレント・トレーニング」を基本とした園内研修を実施。今年度は一年を通して、地域家庭、里親、近隣施設にもご案内した結果、外部の方も多数参加された。特に発達障がい等の特徴を持つ子どもに対する向き合い方、関わり方については参考になるという感想が多かった。被虐待児も含め、ペアレント・トレーニングの「褒める」という視点は我々養育者が大切にしなければならないことを学んだ。
- ・一年目の職員を対象とした園内学習会。「社会的養護の現状」「子どもの権利擁護」「発達障がい」「専門職業」「自立支援」など、専門的知識の学習や先輩職員との交流を年6回実施。児童養護施設職員としての基礎を学んでいる。
- ・彩の国子ども・若者支援ネットワーク「アスポート学習支援事業」責任者の白鳥勲先生をお迎えし「子どもの貧困と居場所づくり」と題した講演を開催。県内各地域で取り組んでいる無料学習教室の関わりは、施設職員、学校教員、地域にとって大変参考になる内容であった。子どもの貧困については昨今問題視されていることもあり、多くの方が参加された。子どもの将来・未来を広げるためにも学力は重要である。同時に子どもにとって「居場所」を見つけることもまた重要である。双方を考えた子どもとの関わり方には、これからの地域ネットワークのあるべき姿を見た。



5. 生教育タスクチーム

生教育では大きく子どもたちへの支援と職員への支援の二つに分けて活動した。

平成28年度事業報告

子どもへの支援ではグループプログラムの定期的な実施、個別や居室単位で必要に応じた生教育、退所を控えた児童への生教育を実施。児童間の関係性チェックやトイレ新聞の発行、二分の一成入式など「生」を意識して行った。“プライベートゾーン”については子ども自身も意識している様子が見られた。

職員には性情報リテラシーや性的マイノリティについて研修を行い見識を深め、生活支援アンケートや児童間の関係性チェックを行う事で現状の子どもの関係性、課題等整理することが出来た。入職する新任職員を対象に生教育の研修を行い、生教育の大切さ、職員として子どもと関わる際に意識して欲しい事など学ぶ機会を作ることが出来た。

課題としては、職員の中で生教育についての意識に差があることや、なかなか日常の中で生教育を意識した関わりが難しいことである。生活に根付いた生教育が出来るように工夫していく必要があると感じた。

6. 子どもの権利擁護タスクチーム

子どもの権利擁護のためのガイドブックの事例集を利用した事例検討を行った。28年度は「職員間の児童への対応の相違」と「中学生の自立支援について」の2つの事例を行った。経験年数や職種を万遍なく振り分けたグループ構成としたので、さまざまな視点からの意見が出たのでとても有意義なものとなった。

また、新任職員向けの月1学習会でも権利擁護の講義と、簡単な事例検討を行った。今後も様々な権利侵害を受けて育ってきた子ども達が、適切な権利を理解できるよう日々の生活で適切なケアを意識したいと思う。

7. 養育・働きかたタスクチーム

子どもたちの最善の利益を考えた時、そこに寄り添う人材の確保と維持が重要である。さんあいでは職員の勤務継続を考えるため、養育・働きかたタスクを立ち上げた。主な活動として、「①書類の簡潔化による業務軽減 ②他施設の情報収集（勤務形態、生活単位、担当制、チーム体制等） ③平成29年度に向けた提言のまとめ」を行った。

【成果】

- ① 年度初めに取り組み、パソコンでの管理システムを活用した報告・閲覧の周知を行う事で、提出書類の軽減に繋がった。

平成28年度事業報告

- ② 前期は各メンバーが各自のネットワークにより、他施設（県内外）の現状を調査し「施設形態、生活単位、勤務形態、担当・チーム体制」等についてまとめた。
前期のまとめを踏まえ、先駆的な取り組みをしている施設の視察を計画。
予算面での違いはあるものの、専門的配置の多い東京都の「聖ヨゼフホーム」様への視察見学を実施。大変参考になる視察となった。
- ③ ②での情報をもとに、翌年度の改革案として「職員の勤務形態」「児童の居室構成」「チーム担当制」に焦点を絞り、各メンバーによるプレゼンテーションを実施。その後、タスクチームとしての提言をまとめ上げ、平成29年度の改革に繋がった。



聖ヨゼフでの視察見学の様子

8. アフターケアタスクチーム

今年度は同窓会の企画運営が中心となった。今まで何度か提案されてきたが、実施するまでに至らなかった。28年度は初めて実施し、40名近い卒園生と元職員の参加があり大盛況であった。参加した方々からも、今後も継続して実施して欲しいとの希望があり、今後は創立記念祭に合わせて実施することになった。連絡手段として手紙、電話、HPなどを使いましたがLINEが中心の世代とは連絡がとりにくく課題も残った。今後は退所後の子ども達の状況を把握できるシステム作りを考えていく事が課題と考えている。



同窓会の集まった卒園生と元職員たち

写真でみる28年度



小学校入学式（4月）



創立40周年記念さんあい祭り（5月）



さんあいレストラン開店（6月）



冒険キャンプの実施（7月）



児童3名、職員2名によるタイの児童養護施設訪問（8月）



児童養護施設ソフトボール大会参加（8月）
（Bブロック準優勝及び最優秀チームワーク賞受賞）



ゲリラ豪雨（9月）



さつまいも掘り（10月）



子ども祝福式（11月）



クリスマス祝会（12月）



餅つき・同窓会（1月）



卒業を祝う会（3月）

28年度中の関係者のご支援と神様の恵みに感謝いたします！